

一声ひとこえに遠山とおやま青あおし時鳥ほととぎす（黒川）

兼載けんさいは、故郷こきょうにおいて、会津けいづの生んだ大文学者おほぶつがくしやとして、芦名領主あしなだけではなく、重臣てあつの間でも手厚てあつくもてなされました。兼載けんさいもまた、会津けいづの人々に連歌れんがを指導しうどうするだけでなく、自分が各地あちこちで学んできた源氏物語げんじものがたりなどの古典こてんの学問がくもんを、故郷こきょうの人々に教えたりしました。

墳つか桜さくら

兼載けんさいは、会津けいづにいた間まにも、何度いくばくか関東かんとうに旅たびをしています。文亀二年ぶんき（一五〇二年）といえは、兼載けんさいが会津けいづ入りをした年としですが、その年には先輩せんぱいの宗祇そうぎがなくなつたという知らせをうけて、箱根はこねの湯本ゆもとに出かけました。宗祇そうぎは八十二年はちじゅうにの一生いっせいを、旅たびの途中で終おひらえたのです。